

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072200373		
法人名	医療法人 かつき会		
事業所名	グループホームゆうゆう	(ユニット名	1 )
所在地	福岡県朝倉市下浦715番地		
自己評価作成日	平成23年7月5日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年8月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力病院である病院との併設型である。病院の3F部分にグループホームがある。医療面において、主治医・看護師・リハビリ・病棟(入院時)等との連携を図りやすく、情報を共有し生活支援を行っている。御家族から「安心して過ごしてもらえると」言葉もある。又、スタッフも医療機関がある事が安心感に繋がり精神的負担の軽減になっている。母体である病院は地域に根付いた病院であるため、友人や知人と会う事もしばしば見られ、話しが弾んでいる場面もみられる。認知症であってもその人らしい生活を過ごしていける様、御本人・御家族・関係機関・スタッフ間に様々な情報の共有し、1人1人の生活支援を行って行けるように今後も努めて行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人たちが多く利用している総合病院の中の3階にあるホームである。退院者が入居しているので、かかりつけ医とホームとの連携はしっかりとできている。利用者や家族は、安心の中で、ホームでの生活支援を受けている。介護度の重度化にともない、生活が建物内で完結するような面もあるが、地域密着型サービスのホームとして、利用者が地域と繋がりがながら生活できるような支援を、小さなことから工夫して取り組んでいる。ホーム内にはやさしい雰囲気があり、ゆったりとした時間が流れていた。職員の対応も利用者主体を念頭に、「できることはやっただく」をモットーとして、見守りという“忍耐”強いケアがなされていた。地域密着型サービスの視点に立って、更なる期待をしたいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付きやすい場所掲示し、スタッフも念頭に置き支援する事を心掛けている。地域との関わりが継続していける様御家族へ協力依頼を行い、散歩や地域行事への参加も心掛けている。	法人理念とは別にグループホーム独自の理念を作っている。毎年4月のミーティングでは見直しを通じて掘り下げて話し合っている。カンファレンスや申し送り時に共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の良い時は散歩へ出掛け近隣の方々と挨拶を交わしたり病院へ行った際に知人や友人、近所の方と顔を合わせ話をしたり、面会があったりしている。ボランティア等の来所時に声をかけている。	ホームから母体病院の階下のリハビリや受診に行った時、馴染みの方たちと出会い、挨拶をしたり、話し込むことがある。また、病院受診に来られた方がホームまで上がってくることもある。演奏ボランティアを受け入れたり、地域の秋の文化祭に作品を出展したりして、地域との交流に努めている。	利用者の心身に負担にならない程度に散歩に出かける等の交流を図っているが、理念にある「地域の中で」の部分については、更に何らかの工夫ができるものと考えられる。取り組みについて、今一度の検討をする機会を持つことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新入居の際や御家族面会時、相談等があった際に話しをしている。又運営推進会議時に情報報告を行いその際に話をしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、入居者の現状報告を行っている。又、要望や質問等がないか確認を行い、随時対応するように心掛けている。	2ヶ月に1回、利用者・家族・区会長・民生委員・行政の方たちの参加で、運営推進会議を開催している。家族全員に参加の声をかけをし、必ず1年に1回は参加してもらっている。ホームの行事・利用者の利用状況、職員の研修状況等の情報を提供するとともに、年間計画を立ててテーマを設定し、勉強会を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議の際に報告を行っている。必要に応じ電話又は訪問し、相談指導を仰いでいる。	介護保険の書類関係等で尋ねたり相談することは多く、どんなに小さなことでも電話で連絡を取り、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに添い、現在1名対応している。毎月スタッフ間でミーティング、御家族とも話しをし、廃止に向けて取り組んでいる。又、研修や資料により学ぶ機会を設ける。	現在、身体拘束マニュアルに沿って一人対応していることもあり、職員は、言葉による拘束を含めて、その他に該当する対応がないか気をつけながら、身体拘束禁止について高い意識を持って臨んでいる。グループホームの出入口の施錠は夜間のみ行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で相互監視を行うと共に家族とのコミュニケーションを図り、家族の変化等に注意するようにしている。必要に応じ関係機関と連携し、専門機関への情報提供、相談を行い対応するようにしている。又、研修や資料により学ぶ機会を設ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用が必要と思われる場合には情報提供を行い、より詳しい情報提供、アドバイスが必要な場合にはソーシャルワーカーへの協力を依頼し解決に向け取り組むようにしている。又、資料等を閲覧できるようにし、研修に参加し学ぶ機会を設ける。	職員は母体病院のソーシャルワーカーによる内部研修で学んでいる。家族には運営推進会議で制度についての情報を提供しており、家族から相談を受けた時は対応している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類を読みあげ説明を行い、随時確認を行っている。後日でも不明点等があれば再度説明を行うようにしている。面会時に声を掛け不安や疑問点を確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情担当者を決め掲示を行い、面会時等にも確認を行っている。苦情等があった際は、スタッフ間で話し合い、必要に応じ代表者へ報告し改善を図る。入居者様に対しては普段よりコミュニケーションを図りその中から要望等を確認し、御家族に対しても面会時に対応している。又運営推進会議において確認し、検討したりしている。	家族から積極的に意見がでることはないが、家族の訪問時にホーム側から尋ねて意見がでたことがある。年度末にアンケートを取り、まとめて掲している。今年は食事の献立に関しての意見があり、希望に沿った対応をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務中やスタッフミーティングの際に意見を聞いたり話し合いを行ったりしている。	管理者は、月1回のミーティング、申し送り時等に意見を聞いている。利用者に関わることの意見や提案については改善できることもあり、サービスの向上に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや業務の合間を活用し、業務改善等の話しをしたり、気兼ねなく話ができるよう心掛け、働きやすい環境雰囲気にも努めている。又、スタッフの得意分野を活かし更なる向上をもち業務にあたっていけるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	意欲的に取り組もうという姿勢を採用対象とし、個々の能力・得意分野を活かせるように努めている。又、スタッフミーティング時等には一人ひとりが発言する機会を持っている。	法人で採用をするが、採用にあたっては性別・年齢を理由に採用対象から排除していない。現在、男性・女性、20歳代から50歳代の職員が勤務している。過去1年間において、採用・異動はない。職員は絵や縫い物等の特技を活かして生き生きと勤務している	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内に人権に関するポスターを貼ったり、研修に参加したりし取り組んでいる。又毎週月曜日の法人内朝礼にて法人代表より短時間の講和があっている。	法人代表から職員に対しての話が毎週1回行われており、人権教育はその中で絶えず行われている。管理者が外部研修に参加して、報告書を作成したものを職員は閲覧している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内の研修、ホーム内の勉強会を実施している。合わせて、外部研修への参加もできる限り参加するようにしている。参加時には報告書を作成し報告を行っている。業務中においてもそれぞれがケアの方法などを検討話し合いながら行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会主催のスタッフセミナーやグループホーム部会を中心に参加している。外部研修への参加もできる限り参加するようにしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常会話において時間を見つけ話しをしている。一人ひとりコミュニケーションをとり傾聴を心掛けている。ゆっくりと話しをする時間をもつようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にアセスメントを行い、困っている事や不安な事を尋ね対応している。又入居後は面会時に声を掛け要望等の確認を行っている。気軽に話しが出来る雰囲気作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により必要に応じ、他の情報提供や紹介等を行うようにしている。又相談内容に応じ職員間で支援について考えるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活歴を把握し、特技・趣味等を活かしていけるように心がけながら御本人が出来る事は自分で行ってもらい、出来ない部分の支援を行っている。又入居者の方から学び活かしつつ支えあえる関係であるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と話しが出来る機会を面会時に持ち、報告や要望等の確認を行っている。御家族への協力依頼を行い、共に支えていける関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族から情報を得て入居者の馴染みの人や場所を把握し、馴染みの場所へ出掛けたり、知人の方がホームへ訪ねて来る等、地域や知人等との関係を継続できるよう支援している。又、ドライブや散歩時に馴染みの場所を通ったり知人と会う機会をもつように努めている。	階下の病院に知人が受診やリハビリに来ていたことの情報を受けて、会いに行ったり、知人がホームを訪ねて来たりする等、馴染みの人とのつながりを大切に支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間、レクリエーション時には声を掛け皆で顔を合わせる時間を作るようにしている。入居者同士の関係を配慮し、過ごし易いように努めている。フォローし合う場面等が見られる事もある。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があった際は関係機関のもと連携を図り支援を行うように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人へ尋ねたり本人の意向を把握できるように努めているが、困難な事もあり、御家族へ確認を行いながら、少しでも近づけるように検討している。困難な場合でも、行いながらその方の表情、行動、言葉等から把握し努めている。	日常の関わりの中で問いかけたり、夜勤の時や居室でゆっくり話を聞き、利用者の希望や意向の把握に努めている。困難な方には表情や動作からその思いを汲み取り、家族にも確認を行い、本人の意向に沿えるように取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人より話を聞く事が困難な事が多く、御家族よりの情報提供が殆どである。又、開設時より勤務しているスタッフからの情報提供により経過の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間での情報の交換・共有を行っている。又アセスメント、介護記録等の記録物の活用により現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、御本人主体で考えられるように、御本人・御家族・主治医・スタッフの意見を収集し計画作成を行っている。随時何かあれば、御本人・御家族・スタッフで話し合い等を行っている。必要に応じ、関係機関とも連携を図っている。	介護計画は担当者が本人や家族の希望・意向を聞き、主治医や他の職員の意見を取り入れて介護支援専門員と素案を作り、家族・本人参加の担当者会議で検討して作成している。定期的に評価・見直しを行い、心身の状況に応じ計画の変更を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの観察を行い、気づいた事等は介護支援記録に残し、スタッフ間での情報共有をしている。それを基に介護計画のモニタリングや見直しにも活かせるように心掛けている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のペースに合わせて起床・排泄・入浴・食事等の支援を行い、出来る限りそれぞれの生活リズムに合わせるようにし、訴えや要望等が聞かれる際は随時対応するように心掛けている。又御家族の要望や情報、関係機関よりの情報も参考にしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流の場、意見見学の場も兼ね2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。その際に入居者の状況報告等を行っている。また、地域の文化祭に出品・参加したりしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前には主治医より情報提供を頂、可能であれば御家族送迎にてかかりつけ医への受診、希望される医療機関を受診できるように説明を行っている。又、専門機関への受診が必要な際は主治医より御家族へ説明して頂いている。	本人や家族の希望を最優先している。病院からの入居が多く、そのまま入院時の主治医を継続している。協力病院への受診は職員が介助し、皮膚科と歯科は往診を依頼している。主治医の指示による入院や専門病院受診には家族が同行し、適切な医療を受けられる体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内に病院が併設しており、日常的に入居者、スタッフ共に顔を合わせる事があり、病院スタッフも入居者の状態を把握しやすく、ホームも状態変化があればすぐに連絡相談しやすい状況である。看護職員より入居者の情報提供がある事もある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人内に病院が併設しており、主治医・看護師・ソーシャルワーカー等からの情報提供、連携も取りやすい。面会に行き本人状態把握を行うと共に退院に向けた意向の確認等も行いやすい。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化・終末期のあり方について説明しその時点での意向を尋ねている。必要になった際は再度説明を行い同意の上で進めていく。主治医・看護師等との連絡をより密にとり話し合い、方針の共有が出来るように心掛けている。病院併設であり、環境的にも受け入れやすい。今後も希望があれば受け入れていく。	入居時に重度化や終末期について説明し、同意書で意向を確認している。重度化した場合は再度家族・主治医と話し合い、医療や看取りの方針を共有している。病院での最後を希望する家族が多いが、ホームでの看取りには家族の付き添い協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに添って急変や事故発生時には対応できるようにしている。ミーティングにて確認は行っているが定期的な訓練は行っていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人合同、ホームのみで防災訓練を定期的実施している。運営推進会議時に、御家族、区長、民生・児童委員に災害時の協力依頼を行っている。	年に2回、消防署立会いで法人合同の防災訓練を実施している。ホームの訓練は昼夜と2箇所の出火場所を想定した避難訓練を毎月行い、職員は避難場所や避難経路は熟知している。運営推進会議を通じて有事の際の近隣協力をお願いしており、法人で食料の備蓄を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の居室に入る際は声掛けをしたり、トイレ誘導時は周囲に聞こえないように耳元で声掛けをする等入居者の誇りやプライバシーを損ねないような対応を行っている。	職員は一人ひとりの暮らし方の希望や意欲を大切にしており、自分でしたいことや出来ることを見守っている。トイレ誘導や衣服の着替えはさりげなく声かけし、誇りを損ねないよう配慮している。個人記録等は、部外者の目に触れないように取り扱い保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や散歩等の希望があれば計画・調整をし、実施している。御本人の希望や好み、御家族の希望等を伺い、その都度御家族と共に相談し支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の業務の流れはあるが、入居者の希望、その日の状況により臨機応変に対応している。又、業務内の優先順位を考えながら出来る限り入居者のペースや希望に沿って支援するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は希望に応じ対応している。又更衣の際は御本人と一緒に衣類を選び、更衣を褒めるような声掛けを行いながらおしゃれを楽しんで頂けるよう心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生日には個々の希望に合わせたメニューを取り入れている。食事形態はミキサー・刻み等その人に合わせた食事を提供している。又下ごしらえや引膳など出来る事のお手伝いを行ってもらっている。	平日は法人の厨房で調理した物をホームで盛り付け、職員は利用者と夕食を共にしている。日曜日は利用者の好みをメニューに取り入れ、出来る方は手伝いをしている。誕生会等のご馳走を作ったり、ベランダで食事を楽しむ等の工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ごとに摂取量を記録し把握するように努めている。面会等での差し入れがあった際は預り分・本人持分を正確に把握するようにし、希望時等に提供している。水分については随時提供し、状態に応じ提供回数を増やすようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。声掛け等を行い御本人に行ってもらい、不十分な部分を介助している。必要に応じ歯科往診を依頼している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できるようにチェック表を使用している。トイレの訴えがある時はその都度対応するように努めている。状態に応じて綿パンツ、リハビリパンツ、尿とりパットを併用している。	24時間の排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄リズムを把握し、昼間はトイレ誘導を行っている。尿意のある方にはサインを見逃さないように声をかけ、パンツやパットを濡らさず気持ち良く過せるように取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に牛乳、ヨーグルト等の乳製品やバナナなどを摂取してもらっている。又、トイレ誘導時に腹部マッサージを行い排便を促している。必要に応じ主治医、看護師へ相談し便秘薬の処方をしてもらっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室の構造上対応が困難な状況となってきたため、入浴日は水曜・土曜日となっているが、希望があれば対応している。本人の体調や希望入浴時間を確認し入浴の支援を行っている。	週2回、水・土曜日に全員入浴を行っている。職員2名での介助を要する方が多くなり、病院と共用の広い浴室で入浴介助している。希望すればいつでもホームの浴室で、随時シャワー浴等の支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る事のお手伝いや体操レクリエーションなどで体を自然と動かしてもらうように心掛けている。声を掛け拒否等があれば、無理には促さず、本人の過ごしたいように過ごしてもらっている。昼寝をされたりそれぞれゆとりとした時間も持つように努めている。夜間は衣類や室温等に配慮し安眠できるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更、臨時処方があった場合は記録を残し、申し送りを行っている。臨時処方薬が出た時はカレンダーに記載しスタッフがきちんと把握できるようにしている。引き膳時に内服確認を行いきちんと服用されたか確認を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、レクリエーション等の活動は強制せず、声掛けを行いその時の気分や体調に合わせて参加して頂いている。掃除、洗濯等のお手伝い(役割)をできる範囲で行ってもらい、感謝の言葉をかけたり、一緒に行いながらコミュニケーションを図っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は鍵をかけず、自由に出入りできる状態である。気候や天候を考慮し外出支援や散歩も計画し実施している。散歩の際に地域の方々との交流が見られる事もある。	季節の良い時期は利用者の希望や体調に合わせて近所への散歩や買い物に出かけ、ベランダでの外気浴や食事を楽しんでいる。短時間でできる花見やドライブを計画して実施している。家族の協力で日帰り外出や正月・お盆に自宅へ帰る等の支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理においては御家族へ依頼し、必要時のみホームにて管理している。金銭の使用が可能な入居者については、買い物等に出掛ける際に御本人へ渡し、支払い等を行ってもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればスタッフが介入し電話をかけ、御本人へ代わり話しをして頂いている。自ら電話をかけたり手紙を書いたりする入居者はいない。希望があれば対応していく。毎月、御家族へ請求書と共に近況報告を記載しお便りを同封している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩に出掛けた際に花を頂いたり摘んできたリスタッフが持参したりし、その花を飾り、季節感を感じてもらえるようにしている。食事メニューに旬のものを取り入れたりしている。TVや音楽を流すなど家庭的雰囲気作りを心掛けている。	リビングに七夕や夏祭り行事の飾りつけを行い、季節を感じる工夫をしている。病院を改修したホームで構造上の制約はあるが、窓からの眺めがよく、静かでゆったりした雰囲気がある。気の合う利用者同士で昼寝ができるようなくつろげる和室もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂で入居者同士が話しが出来るようにテーブル・椅子等を設置し、共有スペースを確保している。それぞれの生活リズムにあわせて1人になれる時間を持つようにもしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それまで使用されてきたものを持ってきて頂き、出来るだけ馴染みのあるものに囲まれて生活していただける様に御家族にも協力を依頼している。TVや写真、筆筒などの持ち込みがある。	畳、フローリングの居室には、ベッドや寝具が備え付けられ、テーブルや愛用の椅子、タンスやテレビ等が持ち込まれ、家族との写真が飾られている。シンプルな部屋もあるが、それぞれの好みに応じた生活空間になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造上困難な部分もあるが出来る限り御本人に行ってもらおうように見守り・声掛けや一部介助を行い1人ひとりに合わせた支援を行っている。居室の配置も状態に合わせて御本人・御家族の了解のもと配置変更や居室移動も行っている。		